

ゆめ通信

Vol. 20
2011.8.10



表紙企画

このプロジェクトリーダーに聞いた！
『あなたの“ゆめ”はなんですか？』

2011年開催「松本かえるまつり」プロジェクトメンバー

たくさんの人と
繋がいを持つこと！
(リーダーM)

- 2 **特集** 被災地に行ってわかったこと
- 3 ~東日本大震災考房『ゆめ』活動記録~
- 4 **栄村の野菜を買ってください** 新鮮☆ゆめ市場開催中!!
- 5 **Sign** 本当の障害とは / **BBSの会** 枠を越えて
- 6 **子どもの感情を読みとる** / 探検！発見！新村まち歩き
- 7 **学生ゆめ** 学生から見る考房『ゆめ』
- 8 **Information** 松本大学と地域をつなぐイベント情報



学校法人松商学園
松本大学

“ゆめ”の由来…結芽『ニーズの芽を結ぶ場所』+夢+遊眼『遊び心の視点を持つ眼』
地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に
生かしていくことを目指しています。

特集

被災地に行って わかったこと

～東日本大震災 松本大学地域づくり考房『ゆめ』活動報告～

私たちの活動

3月11日に起きた東日本大震災は多くの被害をもたらし、日本中を震撼させました。その中で、大学周辺の地域や被災地からの要望に応え、本学学生たちも各々で、災害復興に向けた取り組みを展開してきました。

募金活動

まず、プロジェクト「信濃X」の学生3名が学内外で募金活動を行いました。街頭募金活動は、カタクラモールにて3月に4日間実施し、総額470,172円を「中央共同募金会東北関東大震災義援金」として送金しました。また、学内募金活動は、3～4月の学生オリエンテーションなどで6回、その他教職員をまわり、総額102,223円を現地でがんばる学生への後方支援活動金として、「岩手県立大学学生災害ボランティア活動費」に送金しました。

地球宿被災地応援イベント参加

4月23日、安曇野市で開かれた被災地応援イベント「安曇野ひかりプロジェクト」に学生3名が参加しました。被災避難家族の方々も含めた地域の方との交流があり、被災地の方々から現地の状況等の話もお聞きできました。

また、『安曇野から日本のみなさんへ!』をテーマに実施された「光のメッセージ」に、学生が被災地への応援

メッセージを投稿しました。

宮城県石巻市大街道地区復興支援活動

松本大学内教職員と学生による「松本大学東日本大震災復興支援プロジェクト」での活動の様子を「信濃X」がビデオ編集し、他の学生への啓発活動として学内で上映しました。

また、活動で知り合った被災地住民から「夏に向けての衣類や生活用品が至急必要」と聞いた学生を中心にHPや新聞等で呼びかけると、県内各地からバス2台が満載になるほどの量が集まり、6月10日と24日に大学バスで届けました。現地では被災された家を開放し、希望者に提供しようということになり、男女別や年代別、サイズ別などの仕分け作業が必要となりました。

この作業には丸2日を要し、用意していったスコップなどの道具は一部手つかずのまま。それでも、望まれる支援ができた充実感がありました。「わずかでも被災した方々の力になりたい」と始めた活動ですが、私たちが離れた場所で想像する支援の方法が、必ずしも役に立つとは言えないことを、身をもって知りました。

地域づくり考房『ゆめ』専任講師 福島明美



身長180cmの中村君をはるかに超えるがれきの山

石巻市からいただいた お礼の手紙

早期対応していただいた 夏物衣類に感謝!!

沢山の衣類や生活用品をありがとうございます。

皆様のお心遣いで、甚大な被害の前に、驚き、悲しみ、辛い気持ちで一杯だった心を温かくして頂きました。津波で多くの物を流されましたが、頂いた衣類で無事に夏を過ごしています。どれを着ようかと選ぶ楽しみも生まれ、震災前は普通にしていた事をまた出来るようになりとても嬉しいです。何日も同じ服を着続けていた震災直後を考えると夢のようです。(中略)

私達は皆様の善意により少しずつですが立ち直りつつあります。数年後に街の復興と共に元気な姿をご報告出来るよう頑張りたいと思います。

岡田 智子

物資取りまとめてくれた 松本大学の皆さんに感謝

ふとしたご縁から始まった松本大学の皆さん。それがこれ程たいプライブで繋がれたと思うと感謝の気持ちと、出会いというものの大切さに感慨深いものを感じています。

今回の震災で私達は多くの“大切なもの”を失いました。家族を亡くした者もたくさんいます。家がめっちゃくちゃに壊され、思い出の品々が一瞬の津波で流されました。悲しみに暮れる暇もなく避難所で追われるような慌ただしい毎日。何日もお風呂に入れず、もちろん洋服も下着さえも替えることが出来ず女性として辛く悲しい日々を送っていた中での物資提供でした。

物資提供は避難所で“あてがわれていた”生活だったのが、自分で「選ぶ楽しみ」がありました。女性同士の弾む会話も気分転換になり、選んでいる時等は精神的にも良い時間となりました。(中略)

物資提供して頂いた長野県のたくさんの方々と、取りまとめをして下さった松本大学の皆さん、本当にありがとうございました。

石巻市 水越 薫

臭くて汚くて 大変だったと思います…

この震災により、私達の生活は一変しました。悪くなる一方で良くなることはありませんでした。

私達は、はじめ祖父母宅に避難しましたが、やはり家が良いという事でめっちゃくちゃになった自宅に戻りました。生活する事で精一杯で、家の掃除は少しずつ進めるしかありませんでした。暖かくなり、だんだん臭くなり、掃除をパーツとしたいと思っていた時に助けてくれたのが、松本大学の皆さんでした。臭くて、汚くて大変だったと思います。知らない人の家をキレイにして頂き、家族みんな笑顔になりました。

他にも物がほぼ全部無くなり、不便していたのを物資提供で支援して頂き、生活の支えとなりました。ありがとうございました。(中略)

言葉に出来ない程、感謝の気持ちで一杯です。この恩を絶対忘れずに、恩返ししていきたいです。

門脇中学校2年 平塚 理紗



床下に堆積した泥のかき出し作業



地球宿被災地応援イベントに参加して



県内各地から善意で集まった物品の仕分け作業

活動したからこそわかったこと

災害支援活動へのきっかけ

地震の被害をTVで見てこれは何かしなければと想い、仲間と相談したところ同じ想いであり、そこからみんなの義や仁によってボランティア活動が始まりました。

今後も復興を祈ると共に、自らの出来ることをできる限り行動していきたいと思います。

健康栄養学科2年 梶原 悠

募金活動を行なって

募金活動をはじめると驚くほど募金が集まり、大勢の人が関心を持ち、行動しようとしていることがわかりました。また、この活動をすることで、皆さんのキモチを形にすることができたと感じました。活動をする中で声を掛けてくれた被災地から来た方の「ありがとう」という言葉が印象に残っています。

健康栄養学科2年 柳澤 悠

石巻市災害ボランティアに参加して

肉体労働だけがボランティアではありません。被災地にはありとあらゆる分野で何らかの貢献ができます。皆さんからの物資提供もその一つです。現地で一番必要としていることを手助けするのがボランティアだと知りました。できるだけ多くの方に参加していただき、1日でも早い復興に貢献したいと思っています。

観光ホスピタリティ学科2年 中村 崇志

命の大切さ

現地で活動し、私たちはお父さんお母さん、周りの人などに支えてもらって生きていることを実感しました。現地の人からは、「命をどうつないでいくか、震災から何を学んでどう生かしていくのか、まだまだこれからのあなた達に、感じ、学び、未来を作っていくってほしい。」と言われました。

観光ホスピタリティ学科1年 上條 翔子

応援したい!

栄村の野菜を買ってください

場所：松本カタクラモール南口「新鮮☆ゆめ市場」と一緒に販売中
8/12・9/17・11/19（10/22は梓乃森祭にいて販売）

私たちは県農産物に関わる商品開発などを考えていたグループでしたが、プロジェクト「信濃X」の呼び掛けを聞き、「栄村を何とか応援したい」という気持ちから「ええじゃん栄村」という名のプロジェクトを立ち上げました。まず、栄村農産加工販売所「かあちゃん家」から農産物を仕入れ、6月18日に1回目の市場を開き販売しました。

商品開発どころじゃない!

この販売をきっかけに「どんな人達がどんな所で作っているのかを知りたい」と、栄村へ行くことに。目の当たりにしたのは、現地の道路や建築物、ライフラインの壊滅的な状況でした。

「今は商品開発どころじゃない!」「まずは復興の手助けをすることが先決!」と、今年11月まで毎月1回、松本カタクラモール南口で販売を続けることに。野菜を完売させるために、手作りのレシピや生産マップを付けるなどの工夫をして、少しでも多くの方に栄村の魅力を伝えていきます。

健康栄養学科1年 梶村 麻美



栄村復興支援活動 プロジェクト「信濃X」

松本城夜桜会にて募金を行い、学内募金を加えて、総額20万円を栄村の被災者の方々への生活支援及び復興支援ボランティア活動資金として、5月14日にお届けしました。

また、同日に長野県及び栄村が主催した「栄村の復興を考える会」にも参加し、翌日は水路の修復作業を行いました。そこで、栄村農産加工販売所「かあちゃん家」が被災し、野菜の販路を失ったことを聞き、販路拡大のため、松本大学新鮮☆ゆめ市場の場を借りて販売支援をしようと思い立ちました。



栄村の島田村長さんに直接手渡しました

新鮮★ゆめ市場 開催中!!

毎月第1、第3土曜日 10:00～
松本カタクラモール南口にて



野菜市の朝、“雨が降らないように”と祈りながら家を出ました。それは、今日初めての新鮮☆ゆめ市場の活動日だったからです。

実際に活動をしてたくさんの方が買って下さいました。先輩は、お年寄りの方や、手がふさがっているお客様に対してさっと籠を持ったり、きれいに野菜を並べていたりしていて、見習わなくてははいけないと思いました。また、常連さんもいて、ゆめ市場は愛♥されているなあと思いました。

そして、農家の方から朝採りのレタスを試食させてもらいました。本当に美味しかったです。レタスを食べた子供がお母さんに「買って!!」とお願いするほどでした。

健康栄養学科1年 大原 ひろみ

プロジェクトメンバーに、野菜市について聞いてみました。

★感じたこと ♥嬉しかったこと ◆学んだこと

- ★新しい野菜を知ることは楽しいし、農家の方の知識を吸収したい。
- ★ゆめ☆市場は愛されているなあ～
- ★農家の方と一緒にすることで、調理方法を教えていただいたり、コミュニケーションをとることが出来る。
- ♥地域の方が開催を楽しみに待っていて、「次の開催はいつ?」と聞かれたこと。また、昨年野菜を販売したことを、覚えていてくれたこと。
- ♥お客様から“ありがとう”と笑顔で言われること。
- ◆笑顔で接すれば笑顔が返ってくる。
- ◆野菜について、色々な事を知る必要がある。

出品した、小坂田フレッシュマーケットの農家の方が野菜の料理方法を紹介している

Sign

本当の障害とは

私たち sign は、手話の勉強をしながら聴覚障害について学び、それを活かして健聴者と聴覚障害者が互いに理解出来るきっかけの場所作りをしています。

プロジェクトを立ち上げたきっかけは、テレビドラマや街中で手話を見て感動し、自分も手話を身につけて、障害の有無関係なく様々な人とコミュニケーションを取りたいと思ったからです。

障がい者というと弱い立場で、守る必要があると考えていました。しかし、この活動を通して、同じ社会で

暮らすパートナーであること、そして、本当の障害とは、私たちが抱く悪いイメージであることがわかりました。

自分の思いが伝えることが出来ないと考えると、他人と関わることを避けてしまうかもしれません。それは、健聴者も聴覚障害者も同じだと思います。しかし、伝えたい・分かってほしいという気持ちが互いにあれば、障害の有無など関係ないと私は考えます。

観光ホスピタリティ学科4年 竹内 希



週1回手話学習を行なっています。



聾者の方から
教えていただき巻きずしに挑戦!!



8月28日(日)に、
SignとBBSの会
の交流会が
「あがたの森」で
行われます!

枠を越えて ~交流の中で学んだこと~

非行のない社会環境づくり

BBSの会

BBSの会とは？

非行に走ってしまった少年少女が暮らす寮へ行き、一緒に話をしたり、季節によってはクリスマス会などを開いて交流しています。全国にあり、他の地域との交流もあります。

他の地域との交流とは？

長野や岡谷のBBS会の人との交流もありますし、たまに関東エリアの代表が集まって、活動内容・問題点・これからのことなどを話しあいます。楽しかったのは夜の交流会ですね。まあ飲み会のようなものです(笑)

参加のキッカケは？

社会活動という授業がきっかけです。家から寮が近かったので、これなら参加していけると思いました。

学んだことは？

社会人のメンバーから、少年少女たちとの関わり方などを教えていただきました。怖いイメージがつきがちですが、交流してみると普通に楽しく話すことができ、どんどん打ち解けあえていけます。みんな本当にいい子です。

大変だったことは？

クリスマス会で、小松会長にレクを考えてと言われて、その企画や準備が大変でした。けれどやってみると好評だったので良かったです。ただ、名前や年齢、出身地を聞くことはできないので大変でした。

最後に一言

少年たちとの交流はとても楽しいし、BBSメンバーと地域の枠をこえて交流しています。色々な人とコミュニケーションがとれるので、もっとたくさんの人に参加してほしいです。将来は小松会長のような、人をまとめられる、親しみやすい会長になりたいですね。



子供の感情を読み取る

松本大学 こどもあそび隊

こどもあそび隊の活動である「こども広場」で、初めて進行を務めた高橋健太さん（スポーツ人間健康学科1年）水上まどかさん（松商短期大学部1年）に活動について質問をしてみました。
こども広場は、親子の憩いの場、親同士の交流の場として開催しています。



Q. こども広場の活動に参加しようとしたきっかけは何ですか？

A. 高橋：中学生ぐらいまでは保育士になりたいと思っていましたが、親からそれだけでは食べていけないと反対されました。しかし、子供と関わるといいなと思い参加しました。

A. 水上：子供とふれあえる場がほしくて参加しました。

Q. 活動を通じて学んだこと、大変だったことは何ですか？

A. 高橋：活動内で行ったゲームを通じて、子供達は自分の興味があることには進んで取り組みますが、あまり興味がないとすぐに飽きてしまい、子供は正直なので何

が嫌なのか、嬉しいのか顔に出ることを学びました。遊ぶのは好きですが不器用なので、可愛い絵などを描いてと言われても上手く書けないので大変でした。

A. 水上：一つの行事でも計画から始まります。どの程度なら子供ができるのか、どうしたら楽しんでくれるのか子供目線で考えるのが大変でした。反省会では自分にとってプラスになることが多く楽しくもありました。

Q. 最後に一言

A. 高橋：今後の活動では、育児が不安なお母さんもいると思うので、どんなふうに子供とふれあえばいいのか分かるような親同士が話し合える場も考えていきたいと思っています。子供が好きな方はプロジェクトに入り、是非こども広場に参加してもらえると嬉しいです。



まち歩きワークショップ 探検！発見！新村まち歩き

意外な驚きと発見の連続
きっと忘れないこの風景

大学周辺を歩いて見つけたもの
聞いたこと

僕、私たちが歩いた
「松本大学文教コース」だよ！

マップ：原、大輪、片瀬

① 言葉が向かい
照らしている異いかな
② ヒラジンの大木
③ 岩崎神社
④

インタビューについて
Q1: 新村の良い所
近所付き合いが多い所
Q2: 新村の悪い所
お店が少ない所
Q3: 新村の有名な所、モト
モトの太郎

提案
A: お店が少ない、高齢者は多い
ため遠くまで行く必要が大きい
近くにスーパーやコンビニ、コジエやパン屋
なども充実、商業化して欲しい
A: 松本大学の歴史、文化、伝統を
学生がもっと知ってほしい
A: 松本大学の歴史、文化、伝統を
学生がもっと知ってほしい

新村の歴史「ゲットだぜ!!」

歴史ロマンものコースを
湯、市街、工場
歩いてきましたよ!!

新村駅
日本最古の電車が
あつた駅。

秋葉原第一号古墳
近郊の古墳群。

学生時代の
通学ルート。

上高地線。

新の里ウォーキングコース

提案
◎風景や雰囲気に見合った、商店の
ようなお店があればいいのでは？
◎遺跡やその看板など、ほったらかしに
なっていて荒れている。整備してあげ
たいと思う。
◎その地区ならではの、お祭り!!
開催しては面白い？
◎新村地区の人に、地域の歴史
を知ってもらえるような、地域の人々が
行うような、イベントや、ワークショップ
なども、是非してほしい。

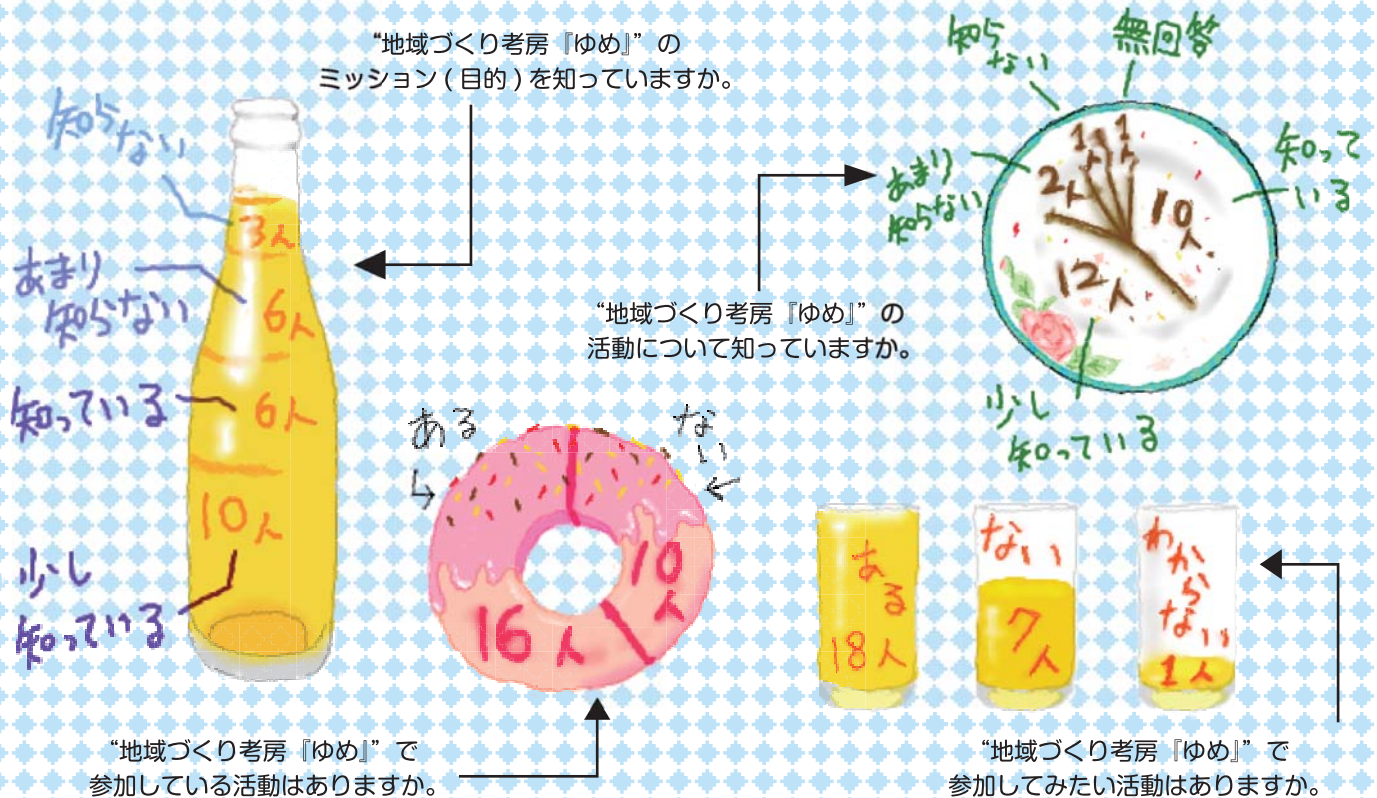
感謝!!
「おつかいどう!!」
「ありがとう!!」
「おつかいどう!!」
「ありがとう!!」

講義「地域社会活動Ⅲ」で歩いた大学がある新村地区には、いろいろなタカラがありました。あなたも時間を作って大学周辺を歩いてみてはいかがでしょうか？いろいろなものがみえてきます。



こんにちは！そろそろ夏本番、といったところでしょうか！気温も30度を超える日々で、そろそろ夏バテしてきたかもしれません。スイカが恋しくなってきました。

まあ、その話はさておき、今回わたしたち「ゆめ通信編集委員」は、考房『ゆめ』に関する意識調査・認知度調査をするために、学内4箇所にアンケートボックスを設置しました。その回答結果をグラフにまとめました。



“地域づくり考房『ゆめ』”のことを知らないという方のために、少しだけ説明します。

“地域づくり考房『ゆめ』”の目的(ミッション)

- ・地域づくりの活動を通じて、学生の「地域人学習」を進める
- ・大学における学問と「地域人学習」を結び付ける(教育と学習の融合)
- ・大学の社会貢献を推進するとともに、大学の価値を高める。

要約すると、学生が地域の活動に参加し、地域のことを知り、地域の問題・課題解決に向け貢献することで、社会人を身に付けていく場です。

少しでも興味を持った方は、ぜひ、考房『ゆめ』まで足を運んでみてください。きっと何か発見があるはずです。

そして今回、このような調査を行ったわけですが、実は“学生ゆめ”の企画としてアンケートを取るの初めての試みでした。そして、結果を見れば、思った以上に“考房『ゆめ』”のミッションや活動を知らないという人が多いということが分かり、とても驚きました。しかし！それならわたしはもっとみなさんに“考房『ゆめ』”について知ってもらいたい！と思ったので、今回の結果を参考にし、この「ゆめ通信」を使いながら“考房『ゆめ』”の活動を広めていきたいと思えます！しかし、参加してみたい活動はあるか、という問いに対しては、「ある」と回答された方が圧倒的に多かったことはとてもうれしかったです(*^o^*)

えー、最後になりますが、今回私が一番頑張ったのはグラフ作成です。すべて手書きのグラフになってます。表計算の円グラフよりか、かわいらしくなったんじゃないでしょうか！(笑)

考房「ゆめ」
みんなの

掲示板

松本大学と地域をつなぐイベント情報
参加者・スタッフ募集

松本大学梓乃森祭「ゆめひろば」 出展者募集

「ゆめひろば」は松本大学学生と地域の皆さんで創るひろばです。これまでの松本大学とのつながりをいかしてぜひ出展しませんか。

期 日：10月22日（土）、23日（日）

場 所：松本大学5号館ロビー 他

申し込み：8月26日（金）まで

※詳細は、後日HPに掲載します。ぜひお誘い合わせの上、お越しください。

主 催：松本大学地域づくり考房『ゆめ』



昨年の「ゆめひろば」風景

山形小学校あそびの広場 学生スタッフ募集

日頃の活動や学びを活かして、小学生1～6年との交流・体験の場を企画運営して下さる学生を募集しています。

期 日：10月29日（土）

場 所：山形小学校

内 容：スポーツ系、芸術系、科学系、音楽系、
工芸系などの体験プログラム

申し込み：8月26日まで

主 催：山形小学校PTA

松本大学学生と地域との協働事業

よっといで！“びすたり” in 西原 参加者募集

松本大学学生と一緒に地域交流祭を計画しました。地域の老人会（南山会）、西原小地域ネットワーク（野花の会）、西原児童会、地域の中学校、高等学校の生徒、びすたりライフの利用者、家族、職員が一緒になって企画しています。地域間の人のつながりを重視したお祭りです。

多くの皆さんお出掛けください!!

日 時：9月23日（祝）11:00～15:00

場 所：大町市西原“びすたりライブ”

内 容：・みんな DE お祝いダイヤモンド婚

・老いも若きもコスプレダンスパーティー

・みんなでひとつのアートを！

・オリジナル工芸品制作

・模擬店 他

考房『ゆめ』学生プロジェクト 交流研修会

今年の前期をふりかえり、後期により良い活動をするための研修会とBBQによる他プロジェクトとの交流会を行ないます。

期 日：8月20日（土）

場 所：松本大学

対 象：松本大学地域づくり考房『ゆめ』
プロジェクトメンバー

申し込み：8月14日（日）まで

主 催：松本大学地域づくり考房『ゆめ』
学生スタッフ

えんぱーくと松商短大就職支援チーム交流事業

ステップアップしませんか 参加者募集
～社会に出るその前に～

当事者である学生の声をもとに企画しました。就職がなかなか決まらない、やりたいことがわからないなど同じ悩みを抱えていた社会人と学生との交流の場です。

お気軽にご参加ください。

日 時：9月23日（祝）13:30～16:30

場 所：塩尻市市民交流センターえんぱーく
イベントホール（5F）

参加費：200円（お茶代）

申し込み：8月末日まで



関心のある方は
下記までお気軽に
お問い合わせください。

つぶやき

ゆめ通信の大幅な変更がありました！それは、今回から“ゆめ通信”のすべてに学生が関わることになったところです。6月に行われた“ゆめ通信”の研修会で「学生にも見てもらうものなので、学生も一緒に作っていこう」ということになりました。プロから学び、教職員の方、そして私たち編集委員4人が加わって出来上がった“ゆめ通信”。前回までの“ゆめ通信”との進化を楽しみながら読んでいただけたら嬉しいです。今年度の表紙は、躍動感あるプロジェクトメンバーの姿を紹介していきます。また「あなたのゆめはなんですか？」の質問にリーダーから答えていただきますので注目して下さい。

松商短期大学部2年 大輪 啓子

お問い合わせ、ご意見等は下記へご連絡ください。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

松本大学 7号館 2F

TEL: 0263-48-7213（直通）

FAX: 0263-48-7216（直通）

E-mail: community@matsu.ac.jp

※開館日時：月～金 9:30～18:30